

(別表－1) 割増対象賃金比及び1時間当り割増賃金係数 &lt;令和6年3月から適用&gt;

職 種	割増対象賃金比 (A)	1時間当り割増賃金係数 K		
		割増係数 1.25 (A)×1/8×1.25	割増係数 1.35 (A)×1/8×1.35	割増係数 0.25 (A)×1/8×0.25
特殊作業員	0.783	0.122	0.132	0.024
普通作業員	0.847	0.132	0.143	0.026
軽作業員	0.885	0.138	0.149	0.028
造園工	0.771	0.120	0.130	0.024
法面工	0.830	0.130	0.140	0.026
とび工	0.854	0.133	0.144	0.027
石工	0.905	0.141	0.153	0.028
ブロック工	0.901	0.141	0.152	0.028
電工	0.724	0.113	0.122	0.023
鉄筋工	0.884	0.138	0.149	0.028
鉄骨工	0.815	0.127	0.138	0.025
塗装工	0.833	0.130	0.141	0.026
溶接工	0.827	0.129	0.140	0.026
運転手(特殊)	0.793	0.124	0.134	0.025
運転手(一般)	0.816	0.128	0.138	0.026
潜かん工	0.940	0.147	0.159	0.029
潜かん世話役	0.886	0.138	0.150	0.028
さく岩工	0.697	0.109	0.118	0.022
トンネル特殊工	0.961	0.150	0.162	0.030
トンネル作業員	0.941	0.147	0.159	0.029
トンネル世話役	0.948	0.148	0.160	0.030
橋りょう特殊工	0.854	0.133	0.144	0.027
橋りょう塗装工	0.861	0.135	0.145	0.027
橋りょう世話役	0.791	0.124	0.133	0.025
土木一般世話役	0.771	0.120	0.130	0.024
高級船員	0.709	0.111	0.120	0.022
普通船員	0.718	0.112	0.121	0.022
潜水水士	0.805	0.126	0.136	0.025
潜水連絡員	0.854	0.133	0.144	0.027
潜水送気員	0.864	0.135	0.146	0.027
山林砂防工	0.716	0.112	0.121	0.022
軌道工	0.821	0.128	0.139	0.026
型わく工	0.893	0.140	0.151	0.028
大工	0.886	0.138	0.150	0.028
左官	0.876	0.137	0.148	0.027
配管工	0.776	0.121	0.131	0.024
はつり工	0.825	0.129	0.139	0.026
防水工	0.785	0.123	0.132	0.025
板金工	0.790	0.123	0.133	0.025
タイル工	0.780	0.122	0.132	0.024
サッシ工	0.785	0.123	0.132	0.025
屋根ふき工	0.708	0.111	0.119	0.022
内装工	0.831	0.130	0.140	0.026
ガラス工	0.721	0.113	0.122	0.023
建具工	0.708	0.111	0.119	0.022
ダクト工	0.725	0.113	0.122	0.023
保温工	0.794	0.124	0.134	0.025
設備機械工	0.815	0.127	0.138	0.025
交通誘導警備員A	0.851	0.133	0.144	0.027
交通誘導警備員B	0.904	0.141	0.153	0.028

## <参 考>

—割増賃金の計上が必要な場合の労務費（割増賃金を含む総額）の計算例—

### (1)時間外

- ① 所定労働時間の8時間に加え、2時間の時間外労働を行う場合（すべて深夜以外の時間帯の場合）

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} + \text{単価} \times K \text{（割増係数} 1.25 \text{の場合の値）} \times 2 \text{時間}$$

- ② 所定労働時間の8時間に加えて4時間の時間外労働を行い、うち2時間が深夜の時間帯の場合

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} + \text{単価} \times K \text{（割増係数} 1.25 \text{の場合の値）} \times 4 \text{時間} + \text{単価} \times K \text{（割増係数} 0.25 \text{の場合の値）} \times 2 \text{時間}$$

### (2)休 日

- ① 休日に8時間の労働を行う場合（すべて深夜以外の時間帯の場合）

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} \times K \text{（割増係数} 1.35 \text{の場合の値）} \times 8 \text{時間}$$

- ② 休日に9時間の労働を行う場合（すべて深夜以外の時間帯の場合）

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} \times K \text{（割増係数} 1.35 \text{の場合の値）} \times 9 \text{時間}$$

- ③ 休日に10時間の労働を行い、うち2時間が深夜の時間帯の場合

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} \times K \text{（割増係数} 1.35 \text{の場合の値）} \times 10 \text{時間} + \text{単価} \times K \text{（割増係数} 0.25 \text{の場合の値）} \times 2 \text{時間}$$

### (3)深 夜

- ① 所定労働時間8時間の労働を行い、うち3時間が深夜の時間帯の場合

$$\text{労務費（総額）} = \text{単価} + \text{単価} \times K \text{（割増係数} 0.25 \text{の場合の値）} \times 3 \text{時間}$$

※割増係数は、労働基準法第37条第1項及び第4項に規定されている時間外、休日及び深夜の割増賃金の計算に用いる率の最低限度に基づくものとする。